

日時：平成27年 12月15日（火） 10:00～12:00

場所：本校会議室

出席者：学校評議員6名

学校職員8名

- 1 学校長挨拶 (学校長)
- 2 各担当より本校の課題についての説明
 1. 附属中学校の取り組みについて (キャリア教育主任)
 2. キャリア教育(進路指導) (生徒指導主任)
センター試験に向けての取り組み
 3. 生徒指導全般について (生徒指導主任)
SSHの取り組みについて (理数科主任)
理数科課題研究等の取り組みについて (成果)
 4. 学校評価について (教務主任)
「アンケートのまとめより考察」
- 3 質疑及び提言
 - (1) 1～3の説明に対する質問・意見
 - K.S) 総合文化発表会は具体的には何をしているのか？
⇒副校長) 対象は保護者であり、校外研修の成果を含めた一年間の学習の成果などについて発表する。
 - S.H) 中高連携の発展と充実とは具体的にはどんなことか？授業内容の前倒しはあるのか？
⇒副校長) 一貫生がより切磋琢磨できるカリキュラムや授業方法の検討をしている。授業内容の前倒しはない。
 - K.S) センター試験の受験者の割合が多い点と直前の粘りはすばらしい。職員・高校生ともに健康に気をつけていただきたい。
 - S.H) 自転車で通学する生徒にヘルメットの着用を義務付けてはどうか。
 - K.T) 屋代高校の近辺ではどの辺りで事故が多いか？
⇒生徒指導主任) 特定の地点はないが、交差点での事故が多い。自転車側に非のない事故もある。
 - S.H) 自分の体を自分で守るという意識が低いのではないか。意識付けの指導も必要ではないか。
⇒教頭) 生徒自身の危機感の不足を感じる。ヘルメットの使用を広げようと活動中であり、今後も努力する。
 - K.S) 高校生用の新しいヘルメットはどうなのか？

⇒生徒指導主任) 生徒に対して斡旋はしている。

(2) 4~6の説明に対する質問・意見

Z.S) SSHの第4期の申請と理数科の両方を続けていくことが可能という理解で大丈夫か。

⇒校長) 中高一貫生は理数科には進まず、普通化に進学する。理数科は今後も継続をする。一貫生の中には理数科のプログラムを受けたいと思う生徒もいる。一貫生に対してもSSHのプログラムを普及させていきたい。

E.D) 学校評価のアンケートを見ると、高校1年生の数値が2年生、3年生と違うように見える。この違いは一貫生によるものか、それとも選抜生によるものか？また、一貫生に選抜生と違うといったような意識はないか？

⇒教務主任) 評価のA,Bの合計を見るとほぼ同じ。その内容について詳しい分析はこれから行っていく。

K.N) 現在の中学1年生から大学入試が変わる。高校の教員の受け止めと、授業をどのように変えていくのかについてお聞きしたい。

⇒キャリア主任) 屋代高校は成績の多層化という問題を解決するために早期からアクティブラーニングに取り組んできた。現在は個々の授業改善の取り組みから組織的な取り組みに移行している段階。

K.N) 進度とアクティブラーニングの両立はどうか？

⇒キャリア主任) アクティブラーニングは教師側の説明を省き、生徒に考えさせる時間をとる手法。大幅には遅れないと思われる。

K.S) アクティブラーニングや双方向の授業、ICTの活用といった言葉に躍らせられないほうがいいのではないか。

⇒教頭) 全ての授業をアクティブラーニング形式にするのではなく、本来生徒に身につけさせたい力を明確化した上で授業改善を行っていく方針。

K.S) 中学生の保護者アンケートで学年間を比較すると、3年生のほうが下がっている項目がある。実情としてはどうか？

⇒教務主任) 学年が進むにつれ、生徒・保護者の求める要求は高くなる。現在はその要求に対して十分には対応できていないということ。

⇒副校長) 附属中学校側でも重く受け止めている。特に学年進行とともにマイナスとなっている部分については今後詳しく分析をしていく。

(3) 本校への意見・要望

E.D) 生徒指導のアンケートの部分で、附属中学校の生徒について日常生活のマナーを指摘する意見がある。

⇒副校長) 本校の目指す生徒像は文武両道であること。心の育成についても力を入れ

ていく

K.S) マナーやコンプライアンスに生徒が気づけるといい。

⇒教頭) 人間性の上に成り立つ学習ではあるが、附属中学校の生徒は世間から注目されている部分がある。一部の生徒の行いが附属中学校全体のものとして捉えられがちである部分はある。

Z.S) 小学校でも生徒の行動について外部から連絡が来ることはある。そのあたりを丁寧にやっていただければ。

(4) 職員の多忙化について

K.T) 資料作成にどれくらいの時間がかかっているのか？人的な補填がなければ現場の教育は充実しないのではないかな。

⇒教務主任) 2週間ほど。

K.S) 職務の軽減をする方法はあるのか？

⇒校長) 人的な配置については法律が基準になっている。昨年度から始まった新しい教育会議の中で財政的な措置が行われる可能性もあるが、そうなるとは限らない。中高一貫校としての取り組みや授業研究、クラブ活動の指導など教員の業務は多岐に渡る。一概にどの業務を減らすと決めるのは難しいが、外部の機関と提携するなどのことは可能性として考えていきたい。

(5) まとめ

K.N) 附属中学校入試に関連しての質問がいくつかあった。

S.H) 県教委のほうに職員増員の要求などはしてもよいのではないかな。

E.D) 保護者対応など、同窓会の方で専門の部をつくるなどしてもいいのではないかな。

K.T) 長野県の進路指導を引っ張って行ってください。

Z.S) 様々な取り組みができる高校であるので、今までどおり、丁寧なご指導を。

K.S) 業務の分担など負担軽減ができれば。

4 閉会 学校長より

屋代高校および附属中学校としては精神的な部分でも充実をはかっていきたい。保護者の行動による外部機関からのクレームに対して学校が対応することも多く、保護者に対しての働きかけも必要と感じている。要求に対して答えることも大切だが、要求どおりにいかないことを伝えていくことも大切だと思う。数学・理科だけが大切なのではなく、全ての教科が重要である。これからの時代は知識・技能があるだけでなく、主体的・協働的に行動できることが必要になる。